

巡回展を訪れ、現場写真を見る(右から)三輪、中村、田辺の各市議



# 気仙沼の教訓受け継ぐ

宮城県気仙沼市の「リアス・アーケ美術館」が東日本大震災を未来に伝えるために所有する常設展示の巡回展「東日本大震災の記録と記憶〜気仙沼市からの教訓〜」

## 名古屋市

がこのほど、名古屋市で開催された。公明党名古屋市議団(三輪芳裕団長)の提案で実現。同美術館副館長で学芸員の山内宏泰氏の講演会も開かれた。

山内氏ら2人の学芸員は、東日本大震災発生直後の2011年3月16日から約2年間、被災現場の調査活動を実施し、約3万枚の写真撮影したほか、津波に飲み込まれた

調査活動の中で感じた課題などを「東日本大震災を考えるためのキーワード」として文章にまとめ、展示物と併せて掲示している。

名古屋市での巡回展では現場と被災物の写真、家屋のタイルなど約100点を展示。来場者を解

「3・11のことを伝えていくことや記録に残すことが使命だと思った」と強調。「災害の発生を防ぐことは不可能だが、被害を抑える減災は、私たちの意識や対応によってできる」と語り掛けた。来場者の男性は「現地の写真は想像を絶するものだった。減災への心掛けをすることが大事だと感じた」と感想を述べていた。

## 東日本大震災の巡回展

この巡回展の開催を市に提案したのが公明党名

古屋市議団。東日本大震災直後に気仙沼市でボランティアに参加した田辺

### 講演(要旨)

私たち美術館職員は、震災直後から気仙沼市と南三陸町の記録調査活動を開始しました。写真だけでは現場で受け



リアス・アーケ美術館副館長、学芸員

### 山内 宏泰氏

た衝撃を伝え切れないため、被災物を収集しました。被災物を通して伝えたいのは被災者の心と、破壊された日常の尊さです。

街は再生できませんが、長い年月をかけて築き上げた地域の文化が再び街に宿らなければ本当の意味での地域再生ではありません。調査活動は、

美術館の常設展示を通じ、観覧者に防災・減災意識を持っていただきたい。今回の巡回展が、行動を開始するきっかけになればと思います。

## 減災への行動のきっかけに

促進していた。

雄一議員が4年前に同美術館を訪ねてこの展示を知り、以来、名古屋市中の巡回展開催を市に求めてきた。昨年の6月定例議会では三輪団長が巡回展の招致を要望。中村満議員が今年の2月定例議会で「この展示を多くの市民に見てもらうことは、防災意識の向上に大きく貢献する」と重ねて